

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所) 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームおおまち (旭橋通り)	評価実施年月日	平成20年3月11日
評価実施構成員氏名	・六條 ・三上 ・成田		
記録者氏名	・六條 政人	記録年月日	平成20年3月11日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>事業所独自の理念はないが、昨年の秋に再構築された法人統一の理念があり、地域との関わりを支援にする理念を作り上げている。</p>	<p>今後、事業所独自の理念の構築を検討していきたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を掲示し、共有に努めているが実践に向けての取り組みはまだ徹底されていない。</p>	<p>理念の周知を徹底し、実践に向けたケアへの取り組みを行ってきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>理念をホールに掲示し、又「重要事項説明書」に謳いご家族様へ理解していただくように努めているが、地域の方への理解の取り組みは出来ていない。</p>	<p>地域の方々へ理解を深めていただくために、検討が必要である。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>近隣の方々との挨拶は行っており、事業所の職員であることを知っていただいているが、気軽に立ち寄っては頂いていない。</p>	<p>近隣の方々へ事業所への理解を深めていただき、信頼関係を築いていきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に加入しており、参加可能な地域の行事には参加している。又、地域のボランティアとの交流は保たれている。</p>	<p>地域活動への積極的な参加を行ってきたい。</p>
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地区社会福祉協議会の方と、地域の独居高齢者の集会所として事業所の一部を貸し出すことを検討している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>業務推進会議にて職員へ外部評価の意義を説明し、理解を図っている。</p>	<p>今回が初めてであり、評価結果を活かして改善に取り組んでいく。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議にて、事業内容や利用者の状況報告、外部評価の意義や取り組み、評価内容等報告している。</p>	<p>委員の方からの意見や、評価結果を元にサービスの向上、改善に努めたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>管理者は必要時、市の担当者と連絡を取ったり、出向いたりしており、研修会等へも参加している。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修参加により学んでいるが、現在のところ実施していない。</p>	<p>職員への理解を深めるため、研修への参加を図りたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修への参加により学び、防止している。</p>	<p>可能な限り研修へ参加し理解と防止の徹底を今後もはかりたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居の契約時に「契約書」「重要事項説明書」を口頭にて説明し、理解して頂いた上で契約を行っている。契約解除時も理解を得ている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者との会話を多く持ち、意見や不満を傾聴するように努めており、何かあれば管理者への報告を行っている。又、「苦情相談窓口」を設置している。		苦情等があれば、改善に努めていきたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族の面会時や電話連絡時等に、ご利用者の様子を報告している。又、定期的に機関紙を発行しており、ご利用者の様子や行事内容及び新規採用職員の紹介を行っている。 金銭管理は毎月、出納帳にて報告確認を行っている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	「苦情・相談・マニュアル」を作成し職員へ周知し、又、「苦情相談窓口」を設置している。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	主に業務推進会議にて、運営に関する報告や意見。提案を聞く機会を設けている。		事業所の運営に関して、職員からの意見等の反映を図る。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	医療機関受診、入浴日、行事等利用者様の日程に合わせた職員配置に努めている。 緊急時等は主に管理者が対応している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職は必要最小限に努めており、職員が代わる場合は一定期間の引継ぎを設けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>知識・技術向上のため、内・外部研修参加に努め、参加出来なかった職員への復命も行っている。</p>	<p>内部研修会の充実を図って行きたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域包括支援センターと情報交換を行い、合同の研修会にも参加している。</p>	<p>他のグループホーム見学等により、良い面を学び、サービスの改善、向上に努めて行きたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>出来る限り職員の希望に応じた勤務体制に努めており、体調不良時の対応も行っている。又、定期的な懇親会も行っている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>運営者は資格取得や研修参加に対して支援・援助を行っており、職員の意識向上を図っている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>事前にご自宅等へ訪問しご本人とお会いし、向き合い、意志の疎通が出来る方からは直接お聴きし、意志の疎通が出来ない方からは、様子を伺ったり、ご家族等から助言して頂いている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご家族からの相談、希望等は良く聴き、不安の無い様に対応している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	出来る限り受け入れるように努めているが、当事業所での対応が困難な場合は、他の事業所等への紹介を行っている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	出来る限り利用される前に見学して頂き、生活の環境やご家族、職員の様子を観て頂いてから利用して頂くように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ご利用者との会話を多く持ち、会話の中から学ぶこともあり、教えて頂いたりしている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族と情報を共有し、気軽に会話できる環境づくりに心掛けている。		面会にあまり来られないご家族様との連携をもっと取り組みたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族参加の行事を行ない、共に過ごすことが出来る機会を設けている。		より多く、ご家族参加の行事に取り組みたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	気軽に来訪していただき、外出・外泊の機会も支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ご利用者一人ひとりの状況に応じ、時に職員が入りながら交流を支援している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	ご家族側からの関わりや相談については受け入れているが、事業所側からは継続的な関わりは図っていない。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の会話や行動等により希望や意向の把握に努め、意思の疎通が困難な場合は、その時々々の表情や行動により把握するように努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人やご家族からの情報収集や関係機関からの情報提供により、把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の生活の中で有する力の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	定期的カンファレンスを行い職員からの意見を踏まえて介護計画を作成している。		ご家族を含めたケアカンファレンスを行うように努める必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的に介護計画の見直しを行っており、又心身の状態変化時は見直しするように努めている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々の記録やミーティングにて情報を共有し、状況に応じた支援・介護計画見直しに努めている。		実践に活かせるようにより良い記録方法の検討が必要である。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	状況に応じて対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	定期的にボランティアを受け入れている。又、治安に関わる事は警察署に随時相談している。		地域資源とのかかわりが希薄であり、今後かかわりを深めていく必要がある。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ご本人・ご家族の意向があれば行うが、事例は現在までない。健康管理の為、医療機関との連携(往診・訪問看護)は行っている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて地域包括支援センターと連携、相談等行っている。		地域包括支援センターとの連携の強化が必要である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	体調に応じてかかりつけ医への受診や相談を随時行っており、又、医療連携体制により24時間体勢で健康管理の支援を行っている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症専門医への受診や相談を行っている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	連携している医療機関の看護師により健康管理や状態に応じた支援・相談を行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院後は医療機関の医師や相談員との連携を保ち、退院に向けての情報交換や調整、本人の状態把握のためにも随時お見舞いを行っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	「重度化した場合における対応に係る指針」を作成しており、契約時に説明している。		方針の共有に努め、理解を深めて行きたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	「具体的な支援内容」「医師、医療機関との連携体制」により検討している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ご家族様や関係者からの情報交換を行い生活環境の変化によるダメージ防止の対応に努めている。</p>		<p>自宅や施設等から入居される時、急がれる場合が多く十分話し合いが持てない場合がある為、事前の情報交換を十分行うように努める。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>言葉かけには気分を損なわないように十分留意し、記録等は決められた場所に保管している。</p>		<p>日々の業務に余裕を持ち、状況に応じた言葉かけを行うように努める。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>個々の意見、意思を尊重しながら声掛けを行い、出来る限り自ら行動していただくように心掛けている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的な一日の流れはあるが、個々の状態、状況に応じた支援を行っているが不十分である。</p>		<p>個々の希望に応じた支援を行えるように努めていく。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>定期的な訪問理容を利用して頂いている。身だしなみ等は好みに応じており、職員からの援助も行っている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食材の下準備や、出来るだけの片付けをしていただいている。又、担当職員が利用者様と共に食事をしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>本人の望む嗜好品があれば、その都度購入しており、面会に来られたご家族様が持参されることもある。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄表を活用、チェックし定期的な声掛けや介助により排泄の支援を行っている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	<p>基本的には曜日や時間は決まっているが、ご本人の状態や気分に応じて曜日や入浴時間の変更を行っている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>	<p>ご本人の体調や要望に応じて休憩や睡眠をとって頂いている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	<p>ご本人の得意な事があれば、お願いしている。居室内の整理も出来る方にはお願いしている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>自己管理できる方やご家族から希望のある方はご本人が所持されている。又、お預かり金は買い物等自由に使って頂けるように支援している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	活動等で、外へ出る機会を設けているが、その日の希望による外出の支援は出来ていない。		気軽に外で過ごして頂けるように敷地内にテント等を設置したり、外出出来る活動を多く設ける。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年末年始やお盆等、外出を支援している。又、季節に応じてハイキングも行っている。		個々の希望に応じた外出の支援を行えるように努めていく。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽に訪問して頂いており、居室やホールにて自由に過ごして頂いている。又、訪問時の飲食も自由にして頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員の研修会により理解を深めており、身体拘束をしないケアを行っている。		職員の言葉使いには十分に注意しなければならない。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室の施錠は行っていないが、玄関は施錠している。		見守りや状況把握により、玄関の施錠はしないように行いたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	プライバシーに配慮しながら、ご利用者の様子を把握し、夜間も巡回を行っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	私物の危険なものは個々の状況に応じて保管しており、備品は決められた場所で保管している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故等が起こった場合、報告書を提出し事故内容の共有・再発防止に努め又、リスクマネジメント委員会を設置しており、「事故・ヒヤリハット」の報告と予防・改善に努めている。 定期的に火災訓練を実施している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急救命等の講習会への参加を促しているが、一部の職員に限られている。 マニュアルを作成し、職員へ配布しているが、定期的な訓練は実施していない。		積極的な講習会参加や、定期的な研修会が必要である。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に火災訓練を実施しているが、地域との連携は出来ていない。		地域との協力体制の強化が必要である。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	個々の状態の変化によるリスクについてのご家族への説明や対策を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>一人ひとりの体調の変化は早期発見・対応を行い報告により情報を共有している。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>「薬の説明書」を個別にファイルしており、常に確認出来る様に保管している。内服薬の管理と服薬の支援を行っている。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>排泄表及び水分摂取量による排便のコントロールや乳製品の提供等を行っている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアの支援・介助を行っており、就寝時は義歯の洗浄を行っている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養士による献立作成により、栄養バランスを考慮し、水分摂取量は個々に記録して、適切量の摂取を支援している。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>ご利用者のインフルエンザ予防接種は、家族の同意の下実施しており、職員も接種するように心掛けている。ノロウイルス感染症の予防や対策について職員ミーティングにて理解を深めている。</p>	<p>感染予防の為、来訪者には手指の消毒や次亜塩素による消毒、ペーパータオルの使用を行っている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>まな板や布巾は毎日消毒を行い、シンクや調理機器等の定期的な清掃を行っている。台所使用時は専用のスリッパを使用している。食材は、ほぼ毎日委託業者より配達され、その都度食材の確認を行っている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>専用の駐車場スペースがあり、玄関の出入りは容易である。</p>		<p>親しみを持てるように、玄関周りの環境整備が必要である。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用の空間には不快な音や光りは無く、ホールには飾りつけや季節の飾り付けもやっている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ホールにソファを置き、自由に思い思い使っている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室には、ご本人の使い慣れた物やテレビ、冷蔵庫等置いて頂き、過ごしやすい環境作りに努めている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>冷暖房器による温度設定や各所の換気扇、給排気システムにより空調の調整を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		敷地内の環境を整備し、屋外活動の充実を図りたい。

サービスの成果に関する項目		取り組みの成果
	項目	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 ご利用者の健康管理に留意し、体調変化時は速やかに対応している。
 委託栄養士による食事の献立作成により食事の栄養管理を行っている。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームおおまち (大雪通り)	評価実施年月日	平成20年3月11日
評価実施構成員氏名	・鎌田 ・作田 ・江場		
記録者氏名	・鎌田千鶴子	記録年月日	平成20年3月11日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>地域とのかかわりを大切にし、愛されるホーム、また社会のニーズに応える良質なサービスを提供していくことを示している。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>職員間で理念の共有が出来ておらず、日常的に実践に向けての取り組みにかけている。</p>	<p>毎日のミーティング時に職員が理念を理解し、同じ目的を持って日々取り組むように努めたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>運営理念を掲示しているが、利用者、家族、地域のみなさんへの説明は不十分である。</p>	<p>利用者、家族様には、契約時に説明をし地域のみなさんには、ホーム便り(機関紙)を町内会の回覧等を利用し浸透を図っていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>月に2～3回の定期訪問と新年会や敬老会の時に町内会婦人部の方が数名ボランティアとして来所して下さり交流している。</p>	<p>町内会の活動にも積極的に参加し、近所の方が出入りしやすいような環境作りに努めたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に加入しており、可能な限り地域の行事に参加している。又、地域のボランティアとの交流は保たれている。</p>	<p>地域活動に積極的に参加し、地域の方気軽に立ち寄れるよう交流を持ちたい。</p>
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>電話や来所されての困りごと相談は管理者が対応している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>今回評価は初めてであり、ホームの代表が職員に目的等の説明を行った。</p>	<p>改善すべき項目についてはユニットの職員で話し合い、改善に取り組みケアの質の向上を目指したい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>2ヶ月に1回開催しており、ホームの事業内容や行事、事故報告、利用者様の様子等を報告し、質問や意見を出してもらっているが内容についてスタッフへの浸透はうすい。</p>	<p>職員も運営推進会議で話し合われた内容を把握し、サービスの向上に努めたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>管理者は市の担当者に質問したり、相談するなどしている。また地域包括支援センターとは勉強会等に参加するなどし連携を取っている。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修等で学ぶ機会はあるが実際に利用されている方はいない。</p>	<p>外部研修に参加するなどし、職員の知識を深めたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>勉強会等に参加し、支援の在り方を考えるように努めている。</p>	<p>今後も外部研修会に参加し職員に研修内容のプリントを配布するなどして知識を深めたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>管理者が対応し、契約内容を読み、不明な点については更に詳しく説明している。</p>	<p>制度改正時の必要な項目については、家族会を開催するなどして説明していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	話しやすい環境作りを心がけてはいるが、反映できるような職員の話し合いは出来ていない。		利用者様の不満を受け取め反映出来るように職員間で話し合っていきたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	原則管理者対応しているが、不在時には職員が対応し、面会時に状況を伝えている。又遠方の家族様へは電話や手紙で伝えている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	業務推進会議の中で家族様からの意見、苦情などの報告があり改善出来るところは速やかに対応している。		トラブルや苦情がないように疾病や怪我、小さな心身の変化など常にご家族様に連絡相談しながら対応している。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1度の業務推進会議の中で聞き、より良いホーム作りが出来るように努力している。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	事前に必要とわかるものについては、希望を取り入れ業務に支障が生じないように努めている。また急な時も同様にしている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ユニット間の異動はこれまで2回行ったのみであり、利用者のダメージを防ぐ配慮はしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	外部研修に参加した際は業務推進会議の中で報告している。	資料を活用するなどし、職員のレベルアップに活かしていきたい。
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	管理者は個人的にケアマネージャ協会に加入し交流している。	他のグループホームと交換実習を行い、良いところを取り入れ、サービスの質の向上につながるよう取り組みをしていきたい。
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	研修や勉強会の折に悩みを共有している。	職員の親睦を図る機会を設けストレスをためず楽しく安心して働ける職場環境を作っていきたい。
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	業務推進会議やケアカンファレンス等で利用者様の症状や対応を話し合うことは、職員の向上心につながっていると考えられる。	今後も働く意欲と向上心が持てるように努めたい。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	本人の思いを受け入れ共感するように心がけている。	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	管理者は、ご家族様が理解し、納得されるまで数回会い、家族関係を知るように努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談の内容によって他の事業所や地域包括支援センターのケアマネに協力依頼するなどし対応している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に管理者が自宅や入院先へ何回か訪問し安心して入居していただけるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者様が生活して来た中での衣、食、住について教えてもらっている。また助けられたり労ってもらったりと共に支えあう関係を築いている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に利用者様を交えて会話するなど喜怒哀楽を共にし、支えあう関係を築いている。		外出、外泊が可能になるように働きかけたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	折り合いの悪かった方には、面会が疎遠にならないように努め、面会時には一緒に会話するなどしている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	個々の状況に合わせて、入院中の家族の見舞いに行ったり、友人の訪問が途切れないように配慮支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個々の性格や生活環境の違いから仲良くしていても、ふとしたことから言い争いになることもあるため職員が仲裁に入り孤立しないように努力している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	電話で相談を受けたり、定期的に状況を聞くなどして退去後も関係を大切にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の会話の中で希望を聞いたり、行動で把握し、また家族の話を参考にしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族や事業所のケアマネ、病院担当者から情報を得、確認を行っている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	本人の出来ること、したいことを知るように努めている。		日々の過ごし方に活かすように努めたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族との話し合いで希望は取り入れているが、本人の希望は不十分である。職員間ではカンファレンスで話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	面会時のさりげない会話の中で、要望、意見を聞き取り見直しに活かしているが不十分である。また変化が生じた時にはプランの見直しに努めている。		家族様と十分な話し合いを持ち、また医療者との意見を聞きながら作成していきたい。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々の記録を作成し、情報を共有しながら見直しに活用している。		結果、気づきに注意しながら計画の見直しをしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療連携加算を受け、電話での指示を受けたり、診療を実施している。また通院介助は職員が行い家族様の負担軽減となっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティア、警察との協力はあがるが、それ以外の協力体制が不十分である。		今後、地域との協力体制を強化していきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	必要に応じて連絡や相談等行っている。		情報収集に努めたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	管理者は、研修会や勉強会に参加に、必要時には連絡を取っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	かかりつけ医を希望される方には通院介助を代行している。また協力医療機関を利用する方は、月2回往診していただいている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	管理者は専門医とは相談しやすい関係が出来ており治療を受けることが出来る。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力病院の看護師が月1回健康管理に来ており日常のことは相談出来ている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院後は担当看護師やMSWと連絡を取り情報収集し再受け入れ可能となるように努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合における対応に係る指針について定めているが家族や職員への理解は不十分である。		終末期ケアについて、職員間での共有を目指したい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化された時の支援体制が不十分である。		日々の身体状況の変化に応じ、主治医と相談し、家族と話し合うように努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>家族様と話し合い、又転居先の関係者へ情報提供し、利用者様が環境の変化のダメージ防止に努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個々に合わせた言葉がけに配慮し、個人情報の取り扱いにも充分注意している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>働きかけや説明は行いが自己決定までにはつなげていない。</p>		<p>十分時間をかけ納得、自己決定できるように支援していく。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一日の流れがあり、健康、精神状態に対応しているが自立支援に向けてのケアの実施は十分とは言えない。</p>		<p>利用者様のペースに合わせたケアをし、出来ることを把握した支援に取り組んでいきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>理容については月1回訪問していただいているが、本人の希望する美容室へ行くことが出来支援している。また更衣時には声掛けしながら季節に合った身だしなみが出るように支援している。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>1日1500～1600Kcalを基本にメニューを取り入れているがパターン化しているのも現状である。もやしのひげ取りやテーブル拭きなどは職員と一緒に関わっていただいている。</p>		<p>今後利用者様の希望を取り入れるなどメニューの検討が必要と思われる。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在、お酒や煙草を好む人はいない。おやつについては時々好むものを聞き提供するようになっている。又ご家族面会時には本人の好きなものを持参され召し上がっていただいている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人一人の排泄パターンに合わせて時間を見てトイレ誘導している。又夜間歩行不安定な方にはポータブルトイレを使用していただき排泄出来るよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	以前は夜間入浴も行っていたが、日中の希望者が多く原則週2回入浴していただいている。		今後「5月の菖蒲湯」や「12月のゆず湯」をとりいれたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者様の身体状況に合わせて休息していただいている。また、不眠の方については医師と連携を取りながら支援している。		日中の活動を活発にし、夜間安眠出来るように支援したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々に合わせた掃除、おしぼりたたみ、落葉拾いなど関わっていただいている。またカラオケは毎日の楽しみの1つになっている。		楽しみごとや気晴らしが出来るような支援をしていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ショッピングの際はご本人が自分で支払い出来るように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	シフトの都合上、ご本人が希望時に外出支援するのは困難である。		事前に予定するなどし準備すると希望にそって外食、ショッピング等が可能と思われるため支援出来るように取り組みたい。
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	毎狩りや紅葉狩りなど、出来るだけ外出出来るよう企画している。		家族も一緒に参加出来るような企画を考えていきたい。
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	本人が希望される時には電話している。また代筆の支援も行っている。		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	気軽に訪問出来るよう笑顔で対応し、また居室でゆっくり過ごしていただけるように配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	職員が他利用者の介助で目が届かない時、危険行為の恐れがある場合に限り危険回避のため短時間行っていることもある。		今後拘束をしないケアに取り組みたい。
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	帰宅願望の利用者様が多く危険防止のため止むを得ず、玄関に施錠している。		帰宅願望者の方が外に出たい時には職員と一緒に付き添い、気持ちが落ち着くような支援をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>67 利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>職員の都合で対応することが多くありプライバシーに欠けることもあるが、所在の確認や状態の把握はしている。</p>		
<p>68 注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>薬品や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については管理方法を明確に取り決めている。</p>		
<p>69 事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>研修、訓練等で知識を学び、事故防止に取り組んでいる。</p>		
<p>70 急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>個人で応急手当の講習をしたり、ホームではマニュアルを作成し、全員に配布、周知徹底している。</p>		
<p>71 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>年に2回火災訓練を行っているが、全職員対象ではなく意識強化に欠けている。また火災に備えた備蓄品の用意も出来ていない。</p>		<p>職員一人ひとりの意識強化のため災害対策の取り組み方の検討が必要である。また備蓄品の検討もしたい。</p>
<p>72 リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>ご家族面会時に色々なリスクが発生することを説明し、理解していただいている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日のバイタル測定で健康チェックを行い異変時には速やかに協力医や主治医と連絡を取り対応している。また職員間で情報の申し送りを徹底している。</p>	<p>今後も継続し、早期発見、対応に結びつけたい。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬の説明書を読み理解し、臨時薬についてはその都度確認している。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>一日に必要な水分量を摂取し、困難な方には寒天ゼリーで対応するなど配慮している。また主治医と相談し、下剤で調整している。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>個々の状態に応じた口腔衛生を毎食後支援している。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>水分は一日1,000ccを目安に摂取の支援をしている。食事は1,500~1,600kKalにし一人ひとりの体調に合わせた食事形態にしている。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>マニュアルを作成し、日々予防に取り組んでいる。更に家族様と相談し、インフルエンザの予防接種に取り組んでいる。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	まな板等の調理用品は毎日消毒し衛生管理に徹底している。また食材は業者より納入し、鮮度の有無を確認後チルドで保存している。更にエプロンやスリッパの交換は徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	ホームは2階部分にあり、1階にはインターホンが設置されているが他者が気軽に訪問出来る工夫には至っていない。		1階の出入り口部分に表札を設置するなどし、気軽に出入りが出来るように工夫したい。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	壁には四季に合わせた作品を掲示し、季節感を出している。		行事等の生き生きとした写真を壁に貼るなどし来訪者や利用者様見る人の目を楽しくするようにしていきたい。
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	フロアーには応接セットを2組設置しており一人になれる居場所作りをしている。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	ホームには泊まりの部屋はないが、居室には利用者様が使い慣れたものを家族と相談しながら持参していただけるようにしている。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	空調については夏の暑さ、冬の寒さに大差がないようにしている。更に個人に合わせて衣類で調整している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。</p>	<p>手摺りの設置やソファーを利用し、安全に移動が出来るように工夫している。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>華美な装飾は避けている。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>ホームは商業建築物をリフォームした2階部分にありベランダはない。又屋外も利用者様活動や楽しめる環境作りに欠けている。</p>	<p>駐車場のスペースを有効活用し、プランターに花を植えたり、野菜作りをするなどして利用者様が季節感を楽しめるように支援したい。</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている <u>あまり増えていない</u> 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が <u>職員の2/3くらいが</u> 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が <u>利用者の2/3くらいが</u> 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が <u>家族等の2/3くらいが</u> 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 毎月、ご利用者と手作りおやつを作り和気藹々と過ごしています。 又、季節に合った外出を行い気分転換を図っています。